

当院ではVPD (Vaccine Preventable Diseases) : ワクチンで防げる病気から子どもたちを守るために接種可能なすべてのワクチンを適切な時期に接種するよう指導しています

日本ではこの数年間、ワクチンの種類・接種方法などにおいて様々な変化がありました。「どのワクチンをいつ受けたらいいかわかりにくい」と感じている方も多いようです。今回は2013年4月から新たに変更となるワクチンについても合わせてお話ししたいと思います。

WHAT'S NEW?

2013年4月にヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチンの3種類が任意接種から定期接種に変更となりました。定期接種になると

- ①接種費用が無料になる（市町村区により一部自己負担があります）。
- ②東京都23区内の方はお住まいの区外でも接種可能となり、かかりつけ医で接種できる。といったメリットがあります。

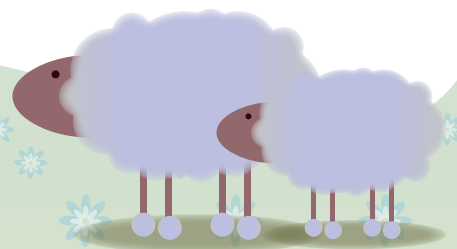
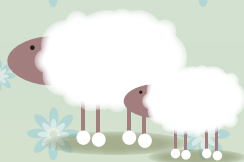
目黒区ではBCGが集団接種（保健所）から個別接種（各医療機関）になりました。また接種時期が「生後6か月未満」から「生後1歳未満」に、標準接種時期は生後5～8か月に変更されました。対象年齢が大きくなったのは骨炎・骨髄炎などの副反応の軽減が目的ですが、ワクチン接種時期が遅くなることで結核に感染してしまう乳児の増加も懸念されています。標準接種時期のなかで早めに接種しましょう。

*BCGは定期接種ですが、2013年4月時点ではお住まいの区でのみ接種可能です。

VPDとは？

前述のとおり「ワクチンで防げる病気」のことです。VPDはたくさんありますが、日本のワクチンは任意接種が多いため接種率が低く、その結果VPDにかかってしまう子どもたちがたくさんいるのが現状です。子どもたちがかかってしまう病気はたくさんあり、なかには治療が難しく命にかかわったり、後遺症を残してしまうものもあります。予防する手段があることは子どもたちの健康を守るうえでも重要です。ワクチンを接種することでVPDから大切な子どもたちを守ってあげましょう。

>> 裏面へ



ワクチンの用語に関する説明

1) 定期接種と任意接種

定期接種：接種の対象者は予防接種を受けるように努めなければならない。

市町村区から予診票が送付され、公費負担（自己負担がない）。

任意接種：受ける側の判断で接種を検討する。

自己負担であるが、一部公費助成が適用される。

日本ではこの任意接種が圧倒的に多いため、各ワクチンの認知度が低く、適切な接種時期をのがしてしまっている場合も少なくありません。

2) 生ワクチンと不活化ワクチン

ワクチンの製造過程の違いにより2つの種類があります。

一般的に不活化ワクチンは1回の接種では免疫が不十分なので複数回接種することになっています。既定の回数をしっかり受けるようにしましょう。これに対し生ワクチンは1回の接種で十分な免疫を得られます。ただし時間の経過とともに効果が弱まってしまうものもあるため、最近では2回接種がすすめられています。

生ワクチン接種後は27日間、不活化ワクチン接種後は6日間、ほかのワクチンを受けられないので注意しましょう。

VPDとそのワクチン接種時期

人生で最もたくさんのワクチンを受けるのは生後半年までと1歳のお誕生日の直後です。それぞれどんなVPDがあるか、下の表でチェックしましょう。

表1. 1歳までに接種するワクチン

ワクチンの種類	開始月齢	注意点やポイント
B型肝炎	0~2か月 (3回)	ヒブや肺炎球菌と一緒に2か月から開始されることが一般的です。
ロタウイルス★	6週 (2~3回)	1回目は14週6日までに開始することが推奨されています。2種類のワクチンがあり接種回数が異なります。
ヒブ 肺炎球菌	2か月 (3回)	2013年4月から定期接種に変更となりました。
三種混合 四種混合	3か月 (3回)	2013年8月以降にお生まれのかたは四種混合ワクチンの適応です（ワクチンが不足している場合には三種混合ワクチンが接種できます）
不活化ポリオ	3か月 (3回)	2012年9月から定期接種として新たに導入されました。
B C G ★	(1回)	2013年4月から対象者が「生後1歳まで」になりました。標準的には生後5~8か月で接種しましょう。

定期接種のワクチン

★生ワクチン

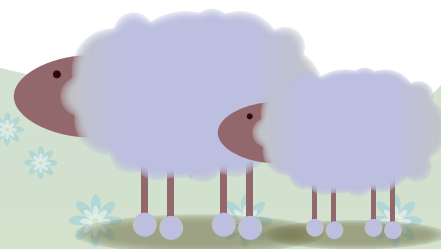


表2. 1歳を過ぎたら早期に接種するワクチンについて

ワクチンの種類	開始月齢	注意点やポイント
麻しん・風しん★	1歳 (2回)	就学前の2期も忘れず接種しましょう。
水痘、おたふくかぜ★	1歳 (2回)	2回接種が推奨されています。
肺炎球菌 (追加接種) ヒブ (追加接種)	1歳 (1回)	両方とも1歳を過ぎたら早めに接種しましょう。
三種混合 四種混合	1歳 (1回)	3回目の接種からおおむね1年あけて接種しましょう。
不活化ポリオ (追加接種)	1歳 (1回)	3回目の接種から1年～1年半あけて接種しましょう。

定期接種のワクチン
 ★生ワクチン
 ＊各ワクチンの詳細は「小児科コラム」を参照してください。

同時接種について

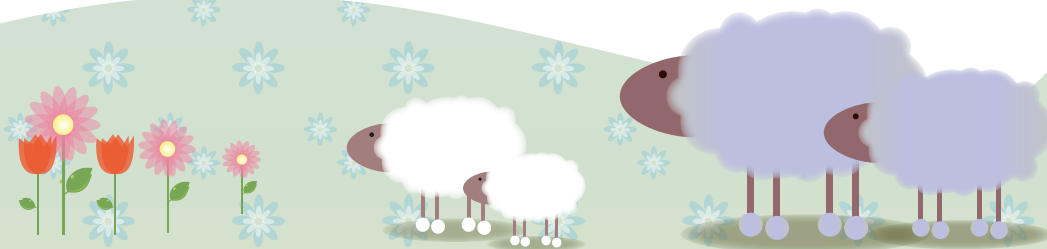
たとえばヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンを同じ日に、違う場所（左右のうでや太ももなど）に接種することをいいます。これだけたくさんのワクチンをVPPDにかかってしまう前に受けるためには同時接種は必要かつ有効な手段といえます。当院では積極的に同時接種をおこなっていますが強制ではありません。同時接種に関して不安があるかたは接種前に医師に相談してください。

＊同時接種に関しては「予防接種のおはなしその2」に詳しく書かれていますのでそちらを参考にしてください。

ワクチンの接種方法

海外では生ワクチンは皮下注射、不活化ワクチンは筋肉注射が一般的です。これにはワクチンの効果を高める目的、腫れる、痛むなどの局所の副反応を減らす目的があります。ただし日本のワクチンは「皮下注射する」と説明書（添付文書）にかかっているため当院では皮下注射としています。これまでは腕に接種してきましたが、同時接種が一般的になった現在では、より安全な接種部位が広く、痛みも少ないとされる大腿（太もも）に接種することが、日本小児科学会からも推奨されています。これを受け、今後当院でも体の小さい2歳までのお子さんには太ももに接種します。

>> 裏面へ



当院では2011年から輸入の不活化ポリオワクチンを太ももに筋肉注射してきました。初めは慣れない太ももへの注射に不安を感じるご両親も多かったのですが、接種後は「初めて注射で泣かなかった」「意外と痛くないんですね」といった感想がほとんどでした。



“接種可能なすべてのワクチンを受けたい”と思っても、接種する順番、間隔など、迷ってしまうことも多いと思います。最近では予防接種のスケジュールを管理してくれるアプリなどもありますが、私たちも予防接種のスケジュール作成をお手伝いしていますので、ぜひご相談ください。ご両親と小児科医が協力し、みんなで子どもたちをVPDから守っていきましょう。

2013年4月

自由が丘メディカルプラザ 小児科
大野 貴美子
日本小児科学会認定専門医

